



# Monthly Pediatrics News Letter

第76号

令和5年8月

発行：産業医科大学小児科学教室

作成者：保科隆之（小児科通信係）

## <はじめに>

産業医科大学小児科医局員、小児科入局を表明している初期研修医・学生の皆さん、日ごろの業務および勉強ご苦労様です。

7月号に今年は冷夏になる可能性があると書きましたが、そのような気配は全くなく、近年のような猛暑となっています。毎日の通勤だけでも汗だくになってしまいますが、皆さんは体調を崩されていませんか？ 8月は夏休み気分です少し油断しがちですが、なぜか夏にウイルス感染症が大流行しており、忙しくしている先生も多いかもしれません。適度に休息を取って、病気にならないように気を付けて下さい。

毎月配信しております小児科通信をお送りします。今回も大学で行われたイベントや学会参加予定などをお知らせします。小児科入局を表明していただいた学生の皆さんと当教室に興味を持っていただき見学に来られた学生さんと先生にもお送りしております。提供する情報に興味を持っていただけると嬉しいです。

通信を読んだ感想やご意見・ご要望を小児科通信制作責任者 ([hoshina@med.uoeh-u.ac.jp](mailto:hoshina@med.uoeh-u.ac.jp)) までお寄せください。今後の参考にさせていただきます。

## <7月の医局行事>

### 7月8日 楠原 浩一 教授 退職記念祝賀会

3月まで当教室の教授を務められた楠原先生の退職をお祝いする会がリーガロイヤルホテル小倉で開催されました。来賓の方々、北九州地区小児科医会の先生方、歴代の小児科病棟看護師長そして医局員など総勢約100人が出席しました。小児科医局ならではのプログラムとしては、北九州総合病院と大学からそれぞれ余興を披露してもらいました。大変レベルが高く、来賓の方々からも好評でした。楠原先生も楽しまれていたようです。福岡こども病院院長として、楠原先生のさらなるご活躍を教室員一同、願っております。

### 7月10日 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

田中先生、川村先生、神田先生、村川先生が「食物経口負荷試験の重要性と当科での実施状況」というテーマで発表しました。

### 7月11日 初期研修医1年目の平野 雅也 先生が当教室の見学に来てくれました!!

現在は、北九州総合病院で研修されています。病棟や外来を見学していただき、診療カンファレンスにも参加してくれました。教室の雰囲気が良いとの感想をいただきました。進路を小児科に決めていただけたら、後期研修

先に当科を選んでくれることを願っています。

7月27日 産業医科大学小児科セミナー

担当は血液・腫瘍グループで、本田先生、中島先生、守田先生、水城先生が、「小児がん患児における在宅支援 ～現状と問題点～」というテーマで発表しました。

<8月の医局行事予定>

8月は夏休みのため、医局主催のコンファレンスはお休みです。その他の行事もありません。

<8・9月開催予定の学会・研究会>

8月および9月上旬に医局員が参加する予定の学会・研究会をお知らせします。新型コロナウイルス流行の影響で、多くの学会・研究会がWeb開催または現地とWebのハイブリッド開催でしたが、現地開催のみとなった学会も増えてきました。

8月6日 第95回日本小児神経学会九州地方会

(久留米大学基礎3号館1階セミナー室 + Web)

参加者：石井、福田、五十嵐、柴原、重田 (発表予定)

8月26-27日 第36回九州小児ネフロロジー研究会 (沖縄・沖縄県市町村自治会館)

参加者：斉宮、平川、煙草谷 (発表予定)

9月9日 第522回日本小児科学会福岡地方会

(福岡・九州大学病院ウエストウイング棟臨床大講堂 + Web)

発表予定者：池上、平川

上記に興味があり、参加を希望される方および詳細を知りたい方は、小児科医局に電話(093-691-7254)をいただくか、メール([hoshina@med.uoeh-u.ac.jp](mailto:hoshina@med.uoeh-u.ac.jp))をお送りください。

<論文掲載情報>

当科医局員が筆頭著者もしくは共著者として名前の入っている論文の掲載情報です(6・7月掲載分)。小児科専門医取得のためには、自身が筆頭著者である論文が必要になります。当教室では、修練医にも積極的に論文作成に携わってもらい、専門医試験の受験資格をクリアできるよう指導しています。また、できるだけ英文雑誌への投稿を勧めます(PubMedに自分の名前が出てくると嬉しいです)。このことは、市中の総合病院ではなかなかできない利点だと思います。論文を作成することで、より理論的な考え方ができるようになります。診療の視点を広げるためにも、論文作成に積極的に取り組みまし

よう。

1. 田中 健太郎. 産科医療補償制度、新生児搬送. 赤ちゃんを守る医療者の専門誌 with NEO. 2023; 36: 75-82.

<おわりに>

小児科通信第 76 号はいかがでしたか。掲載した情報が皆さんの役に立てば嬉しいです。

7 月上旬に 6 年生の卒業後の進路希望が締め切られ、小児科には 7 人が入局してくれました。ここ数年は、入局者が少なめだったのですが、今年は定員と同じ 7 名が小児科を選択してくれてとても喜んでます。まずは、卒業試験、総合試験そして国家試験に合格され、ぜひとも後期研修に産医大小児科のプログラムを選んでもらいたいと願っています。産医大の 6 年生に加えて、この半年間に複数の他大学出身の初期研修中の先生や他大学の学生さんが見学に来られました。それらの方々にも当教室の魅力を精一杯伝えたつもりですが、まだ足りないようならいつでも連絡をください。当教室に興味を持っていただけている皆さんと小児医療を一緒に行えることを楽しみに待っています。

これまでの通信にも記載しましたが、最終的にはこの通信を読んでいる学生と初期研修医の皆さんが大学の医局に所属し、一緒に働けることが上級医の望みです。また、すでに小児科医として働いている皆さんが、日常診療や学会参加を通じてより一層レベルアップされることを願っています。

学生の皆さんは夏休みを満喫されていることと思います。また、医師の皆さんもこれから夏季休暇を取られる方が多いと思います。勉強や仕事など色々とやるべきことはあると思いますが、気分転換は必要ですので、休暇中は頭を休めてリフレッシュしてください。

文責：保科 隆之（小児科通信制作係）